

NHK『ラジオ英会話』講師 COMMUNICA, Inc. 代表

遠山 顕さん にご伺いました

TOYAMA Ken

NHKラジオで長く英会話講師を務め、社会人向けの英語教育経験も豊富な遠山顕さんに言葉とコミュニケーションについて伺った。

2010年3月1日(月)
遠山顕氏自宅

言葉で人を想うこと

言葉構えを大切にしてもらいたい

——土木の仕事では、住民や関係者などとのコミュニケーションは不可欠ですが、残念ながらそれがいつもうまく取れているとは限りません。特に海外では、言葉や文化などの違いが大きな壁となります。外国の人と英語でコミュニケーションを取るときに大切にすべきことは何でしょうか。

遠山——文法や発音といった問題よりも、まずは自分の文化と異文化の間のバランスを大切にすることが大切です。たとえば、「We are all the same.」(人間皆同じ)という考え方があれば「The same as who?」(誰と同じ?)という声もある。「皆、私たちと同じだ」という物騒

な答えも大変多い。「同じようで違う」という「二文化主義」を忘れがちです。誘われたら断らず、現地の食べ物を食べ、自分のミスを笑え、と、具体的に対異文化コミュニケーション3個条を上げたビジネスマンもいました。

こうした心構えに加えて、どう話すかという言葉構えも大切にしてもらいたいです。たとえば招かれた先で、苦手な鶏料理を出されたとき、「I don't like chicken.」では印象がよくありません。「嫌い」も「don't like」も、小さな子どもが使う言葉で、それを大人が「苦手です」とか、英語圏なら「I don't care for chicken.」と言えと直すわけです。僕たちは「like」の一語しか教わらないですね。また、相手の言葉を引くときに「You said～」と言う代わりに、「You mentioned～」と言えるかで、相手に与える印象も変わってきます。一つのことを言うのに最低二つの表現を考える「二語主義」を意識すれば、話し手が与える

信用度が大いに高まります。

——先生は言葉のコミュニケーション機能に重点を置いた「わがく話学」を提唱しておられますが、話学上達のために最も必要な要素は何でしょうか。

遠山——文法と発音は間違えても、話す目的をしっかりとさせる。僕は小さなスキットを取り上げるときにも、どんな目的があつて話されているのかをつかんでもらうようにしています。目的を達成すれば、途中がアドリアだったり、しどろもどろであっても、結果的にサクセスです。それに、これはホンモノの英会話に限りなく近いですよ。

それともう一つ、そうはいつても、発音や文法はできたほうがいい。たとえば自分のヒーローがFrank Lloyd Wrightなら、やはりrとlの発音はできたほうが聞きやすい。文法も可能な限り整備したほうがいい。ただ、ある国の発音に特化すればかえって仕事がいづらくなる。自分をガチガチの文法モニターで

聞き手

松田 曜子
編集委員[writer] 駒崎 文男
[photo] 関戸 基敬

規制するのも、例外の多いのが言語ですからエネルギーがもつたない。僕は、発音や文法は「インフラ」ではないかと思えます。やり過ぎると環境にネガティブなインパクトを与えてしまうかも。

——「発音・文法がインフラ」とはおもしろい例えですね。土木とはまさしくそのインフラを整備することなのです。

技術者は技術をみてもらうだけでなく、語ることが大切

——そのインフラをつくる土木技術者は、つ

くつたものが評価されれば、自分は表に出なくていいと思う風潮があります。近頃は土木建造物につくった人の名前を出そうという動きもあるものの、まだ発展途上です。その点についてご意見いただければと思います。

遠山——海外の新聞記事には「byline」（署名欄）が多く、誰によるものかがすぐわかりますね。確かに僕も持っている技術者のイメージは、「縁の下の力持ち」ですが、名前が表に出るのはとてもいいことだと思います。

ビジネスの先端にいる方たちに英語を教えていると、自分のプロジェクトを語れる力を付けることが重要だと感じます。特に海外で

は、国内のようにサポートしてくれる人は多くない。だからこそ、清水の舞台から飛び降りて国際舞台に着地する気分で、プロジェクトの目的と得られる成果の両方を語れなければなりません。

それは仕事でも日常会話でも、また日本語でも英語でも同じだと思います。目的と成果がはつきりしている話は乗りやすい。技術者の方は技術を見てもらうことだけに情熱を傾けるのではなく、それを語る。夢もあると思えますから、それを語る。語り始めれば、いずれ外国語でも語れるようになると思うのです。

——最後に、語学力の上達を目指す読者に対して、メッセージをお願いします。

遠山——もう一つ大切なのが話し相手を見つけることです。見つけなければ自分でもいいんですが、やりとりをして感情を込めるコツをつかむ。一人で声を上げて読んだり、スキットの役を何役も演じたりして上達していきます。

問題は恥ずかしさです。僕は、家庭で練習なさる方に、「温かく無視して」と周囲に頼むように勧めています。周囲もヘタとか言わないこと。子供のピアノが我慢できれば何でも我慢できます。家庭環境も整備しないといけないわけです。そして恥ずかしさを克服するためにも、目的をもって言葉を使うことが大切だと思います。言いたいこと、伝えたいことを話すとき、恥ずかしさは消えていきますから。

——貴重なお話をありがとうございました。



遠山 顕(とよま・けん)さん プロフィール

COMUNICA, Inc. 代表、NHK「ラジオ英会話」、東京大学Executive Management Program講師。東京外国語大学英米語科卒業。テンプル大学大学院修了。神田外語学院英語科主任、東洋英和女学院大学助教授、ラジオ「百万人の英語」、NHKラジオ「英会話入門」講師などを歴任。趣味は日英琵琶(びわ)語り。